

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



双方向の情報交流

町田市議会

所属: 志政クラブ

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-22

☎042-724-2127

学校跡地の活用が課題の都市と施設が不足の町田市の相違について

京都市役所を訪ね、学校跡地の利用に関する視察を行ないました。ご他聞に漏れず、大都市の京都市であっても中心部の児童が減少し、学校の統廃合が進んでいました。京都の場合は全国的に小学校が設置された時代より前に、既に明治2年から地域で造った学校がそれぞれにあったとのことでした。* (注) 町田市の場合、中心部と言うより団地地区が同様な減少傾向です。

その京都市中心部の小学校跡地において、高齢者施設や文化施設などの目的の活用が行なわれていました。上記施設以外において、小・中学校のクラブ活動、インターナショナルスクール、障害者福祉施設、自治連合会など、公益性を考えた暫定利用があり、他に、集会所や消防器具置場などコミュニティ活動に供されているとのことでした。ただし、旧学校施設の本格的な利用のためには、民間活力の導入、貸付方法の緩和などが今日的な課題になっていました。ただし、耐震性の問題で建物の再利用がより困難になる事態が想定されており、多数の施設が放置されているようでした。

ところで町田市の場合、学校跡地がそれほど余っている状況になく、統廃合した学校跡地の転用の場合、公共的な高齢者施設の開設、広域な子ども施設への転換、スポーツ施設への転換で足りるのではないのでしょうか。現実には、市内の大半の小学校では35人学級を実現するほどの教室も備わっていないのが実情です。

市職員採用と町田保健所

今年4月1日のことですが、町田市に職員101名が採用されました。* 庁内報を参照しました。団塊世代の退職と並行した大量採用とみなされます。これらの皆さんは等しく、厳しい就職試験の競争を打ち勝ってきた優秀な人材でしょう。

ところで、地方分権の観点から国が東京都に、東京都が基礎自治体にその事業を移譲する方向ですが、町田市が東京都から移管された行政事例に町田保健所があります。今からの季節では食中毒の問題などに対処するのが保健所の機能です。伝染病の対処や動物保護の分野も保健所の業務になります。環境衛生や工場などから有害物質の排出の検査など住民の健康に関する重要な施策の全てを町田市が担うようになりました。



その町田保健所の職員は、現在はまだ移行期にあり、一部東京都からの派遣を受けています。しかし、2014年度には、100%町田市職員で運営することになります。上記の新規職員採用人数(101名)の中には、専門職としての獣医師(1名)や薬剤師(1名)も入っており、保健所政令市に相応しい技術力を発揮していただきたいと願っています。

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E 103-13 吉田つとむ (市議会議員)

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



インタビュー生募集中



携帯QRコード
でブログ閲覧

ネット時代と政治家の言葉

人気絶頂の猪瀬都知事が思わぬ失態。オリンピック開催地の優劣を論じたいばかりに、相手国民や都市を蔑視する発言をしていました。元来、誘致にあたって当事者が比較優位を主張すること自体が禁止されているそうでした。ギクシャクはあっても、言い逃れしようとした途中経過はあっても、とにかく発言の取り消しで一件落着と思われていました。

ところが、ネット時代ゆえに、その後の自分のツイッターの発言が記者会見で問題にされました。「フォロワーを敵と味方とに分ける」という発想自体が、首長としての議論や会話の有り方として通じるのか、もっと進んで相手の顔が直接見えない(ネット)世界であるツイッターの中でのこと故、そもそも個別のツイートを敵・味方に仕分ける発想自体がゆがんでいるとしか私には思えないものでした。

元来、作家として有名であり、石原都政時代を通じて副知事としても名をはせており、今度は石原都知事の思わぬ辞職ハプニングで都知事選挙に立候補して圧勝した経緯があり、前途洋々とした中にありました。

巷を歩くと、その猪瀬都知事との相乗り写真のポスターが溢れ、他方で猪瀬都知事と、ご当人がいかに身近なのかという説明をたびたび聞かされる昨今でした。世の中、「好事魔多し」の喩で、絶大な権力を持つと足元を固めることが欠かせないのでしょう。ましてや自分の言葉から発生していることです。

私はローカル議員の身ですが、これまでインターネットを多用してきており、今回の都知事のネット発言を「他山の石」としたいと考えています。

議員の定数と報酬の兼合い

町田市議会の議会改革調査特別委員会は、5月9日、その定数や報酬の有り方を論議しました。なかなか、結論を出す方向になく、現実の事態は定数削減ですべてを解決しようという提案から、議員報酬月額を上げずに合わせて期末手当の下げ幅を少なくしようという提案、あるいは他の議論をもっと聞くという立場まで百花繚乱と言うべきか、自由奔放な主張でした。(長谷川清司 浦安市議 来訪)



私は定数削減を優先した議員費支出の削減を提起する立場ですが、議会では多数派に至ってはいません。次期の本会議での委員長報告は両論(複数)併記でよいではないかという話が出始めました。私はそれでは、報酬審議会が出して方針(報酬を上げ、期末手当を削減する)を否定した上で、何も決めないことになり議会への批判は必須だと主張しました。会議は、議員(人件)費を削減するという趣旨の言い回しに変える妥協案で集約しました。6月6日の本会議初日、委員長報告でこれまでの審議結果、経過を含めて報告があります。ある意味、これで話が振り出しに戻ったことで、私としては次の手を考えざるを得なくなりました。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ どうぞ、町田市政や議会に関するご要望や、ご意見をお気軽にお寄せ下さい。

Mail : yoshidaben@gmail.com mobile: yoshidaben@docomo.ne.jp